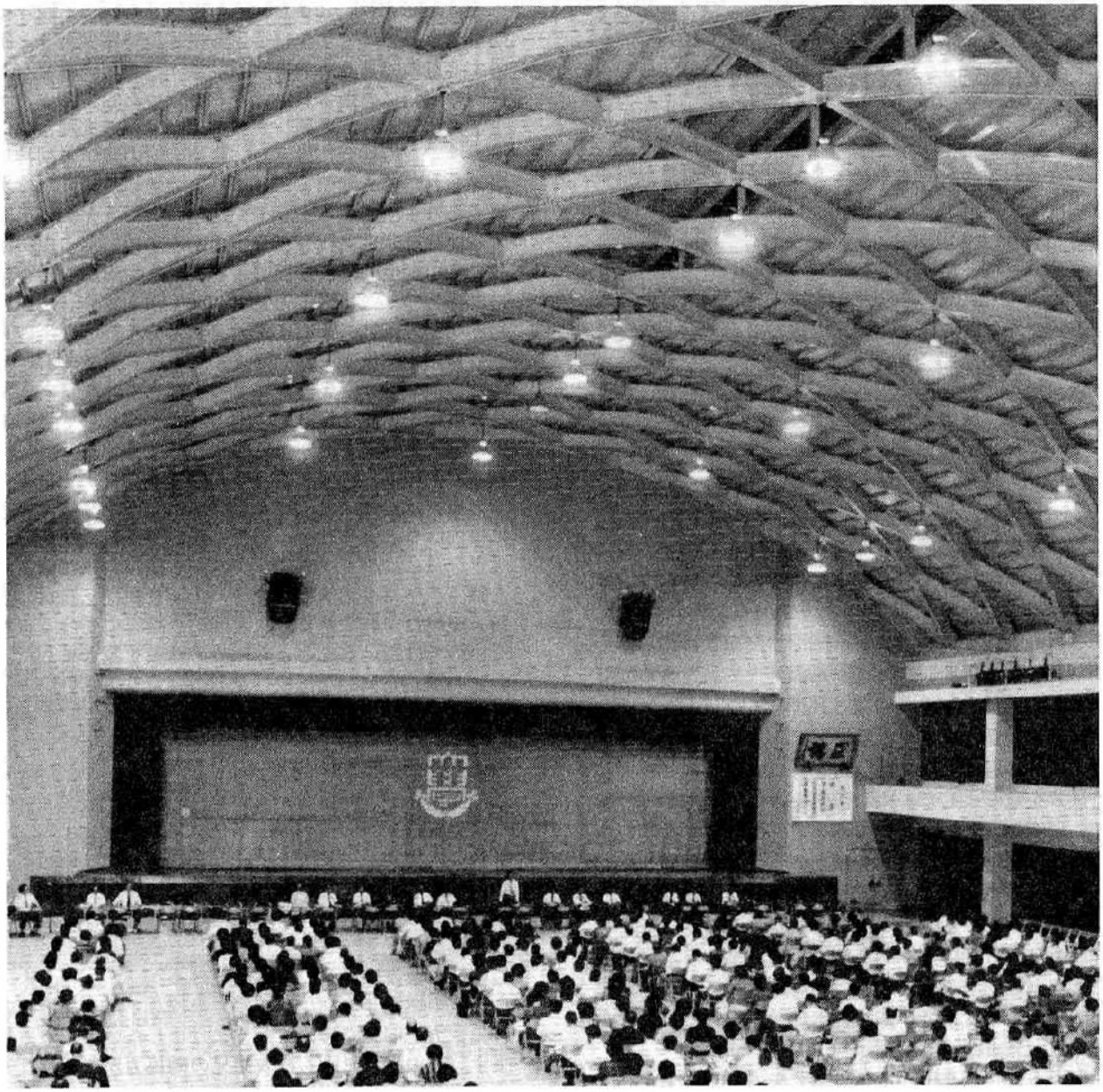
日本大学工学部

校友会報

第 38 号
昭和56年9月1日

目　　次

あいさつ（工学部長、校友会長）……2
昭和56年度第24回総会報告……3～4
会則、会則改正要旨、表紙説明……5～7
同窓会だより……8～9
校友短信、噂のページ……10
キャンパスミニメモ……11
事務局だより外……12



アーチ型構造屋根に架け替えられた工学部大講堂

ごあいさつ

日本大学工学部長
廣川友雄

本年３月の第29回の卒業を以て卒業生の総数は、20,733名となりました。各自それぞれの立場で立派に仕事をしておられ、日本の技術界に大いに貢献しておられること御同慶にたえません。

If Japan Can, why cannot we ? という映画が昨年米国で作られました。日本ができるのに何故アメリカができないのか？ということのようです。これを作った人は終戦後暫らく日本に滞在して日本の社会構造の改革について指導に当った米国人であります。自分が指導した筈の日本が米国以上になった面が多々あることに対する反省ともいえましょう。彼自身気付いているかどうか判りませんが、日本の技術がいくつかの面で世界の第一線に出ていることの原因の一つとして、或るレベル以上の能力のある技術者が多人数いることがあったと思います。英国はまさに技術者の人数の不足により遅れをとりました。その回復は容易なことではありません。その点においてわが校友の諸君が終戦後間もない時期以来技術者として活躍されたことが、その後の日本の技術界の進展に大きな力になっていることは諸君自身充分御承知のことと思います。

いま、本学部においては年々基本的設備を充実してゆくのは勿論、最新式の研究設備も充足されています。昨年の核磁気共鳴装置、高電圧高分解能電子顕微鏡につづいて本年は時系列変動の解析のための計算機システムが導入されます。

３月の会報にも述べました国際学会が５月13日から15日までの３日間、17ヵ国からの外人49名を含めて計263 名の参加者を得て開催されました。日本大学としては鈴木総長、理工学部長など来学され、福島県知事郡山市長の参加も得て開会式を行い、私も副会長として挨拶を致しました。大学院生を含めて学生諸君の参加、研究発表もあり、地方都市で、而も日本大学の主催により開催された国際会議ということで画期的なものであるといえましょう。外国の学会から共同研究の申込があったり学生の交換の希望があったりして、本学部もこの分野で国際的な評価を受けました。来年度もまた全国的な学会がいくつか計画されています。先の国際学会も含めて卒業生の参加が見られることは心強く思われます。

現在も学生は全国から集まって来ておりますが、卒業後海外も含めて各地で活躍しておられる校友諸君の今後の御精進と御発展を期待致しております。

（日本大学教授、工学部校友会顧問）

ごあいさつ

日本大学工学部校友会長
武田仁幸

全国に集散在しております校友諸兄、御健勝のことと衷心よりお喜び申し上げます。昭和56年度の総会において会長に再選され、その重責に身の引締る思いでございます。

全世界が重苦しい雰囲気の中で国際捕鯨会議、オタワサミット等、我が経済大国にも明るいニュースは何一つ見出せない。しかし、このような時代こそ我々技術者にとっては未来を創造する絶好の時期であると確信するものである。会員諸兄、益々己を切磋琢磨し、技術の開発に邁進されんことを希望いたします。

７月13日から１週間、九州支部、北海道支部、山口アカシヤ会の総会に出席し、日本大学の建学の精神に培かわれた日大健児ここにありと力強く肌に感じた次第であります。と申しますのは山口アカシヤ会に出席する前日に萩市に行き、日本大学の学祖である山田顕義先生の誕生の地、“顕義園”を見学し、吉田松陰神社に参拝し、そこに眠る先覚者に深く頭を垂れ、思いは遠く明治維新に、そして先達者を育てた自然環境の良さに無限の偉大さを感じ帰途についた次第です。

この様な偉大な先達者によって創立された日本大学も90周年を１昨々年迎え、その記念事業として建築中の日本大学センターが来年春に完成する予定です。これも校友各位の絶大なる支援の賜であります。日本大学の充実はもとより、我が工学部の充実ぶりは近年特に校内はもとより教授、施設に置いても他大学を圧し本年５月にはポリマーコンクリート国際会議が催された時、テキサス大学教授で Fowler 会長が、設営、設備、環境について絶賛し、次回の会議を引受ける国がないのではないかなどとおほめの言葉を戴きました。

この様に充実した母校に是非お立寄り下さい。

さて本年度の目標を申し上げますと、

第一、総合名簿発行（昭和57年度）と充実

過年度来、電算化名簿作成中でありますが、新規原票未提出者が全会員の30%弱ありますので未提出の方々宜しく提出方お願い致します。

第二、協議会の結成

学部、父兄、校友、各三者によって構成し、校友、学生に対して、就職、学生々活の援助をし、本学部発展の為に寄与することを目的とした会であります。

第三、校友の語らいの場を設ける

校友の卒業年度別に北桜祭に来校して戴き、母校の各先生方と旧交を暖めて戴くようにしたい考えであります。この様な計画も校友諸兄の御協力がなければ実現出来ませんので宜しく御支援下さい。

諸兄、日本大学の校歌を悲しい時も悦びの時も声高らかに歌おう。御建斗をお祈り申し上げます。

（土木工学科第３回卒、東和工業㈱）

昭和56年度第24回通常総会報告

第24回通常総会は、郡山市長選が終り、先輩の高橋堯氏が見事に再選され市長の座を獲得、その喜びの余韻がまだ残っている4月18日（土）午後2時より、日本大学郡山研修会館に於いて、会員多数出席のもとに開催された。

総会は半沢副会長の開会の辞に始まり、武田会長が会員各位の御協力によって会務を無事に遂行できたと感謝の意を述べられ、次いで他大学での不祥事件が多発している中で母校は平穏であること、卒業生も2万名を超え、全国各地で活躍されていること、又支部・支会も活発であること、経済界は依然として好転せずその見通しも暗いと挨拶。次いで議長に秦　裕（土6回）、書記に国分正孝（土18回）、福井均（土19回）、議事録署名人に細井和由（土4回）、佐久間充哉（建14回）の各氏がそれぞれ選出され、議長挨拶の後、議事に入った。

議事内容下記の通り。

報告第1号　昭和55年度会務報告について
承認第1号　昭和55年度一般会計収支決算について
承認第2号　昭和55年度特別会計収支決算について
議案第1号　昭和56年度事業計画について
議案第2号　昭和56年度一般会計収支予算について
議案第3号　昭和56年度特別会計収支予算について
議案第4号　校友会会則の一部改正について
議案第5号　昭和56年度役員選出について
議案第6号　その他

議事の進行と結果は次の通り。

報告第1号：佐藤事務局長より、前年度総会で質疑のあった、支部結成のビジョン等の補足説明を含めて説明報告があり、報告通り承認。　承認第1～2号：小栗経理部長より（表－1，表－2）一括して報告、更に会計監査を代表して、木村監査より監査の結果、適正であったことの報告があり、質疑なく承認された。

次いで議事項目を一部変更して議案第4号校友会会則の一部改正について先ず審議する。半沢副会長より提案事由の説明あり、審議の結果特に異議なく、提案通り議決する。議長より役員の選出について、従来相当時間を要している経過があるのでこの議案も先に審議したい旨提案あり承認される。

議案第5号、選考委員各科1名、執行部2名が選出され、直ちに別室にて選考に入る。この間残りの議案の審議に入る。

議案第1号：西村事業部長より説明、特に意見、質疑等がなく、議決される。

議案第2号、議案第3号：一括提案、武藤副会長より説明、会費の予算計上15,000円はおかしい、との質疑があったが、回答し了解を得、議決、承認される。以上にて議案の審議が終わり、役員選出の間、時間があったので、名簿のコンピューター化についての経過説明と協力方要請を執行部（高野理事）から行った。

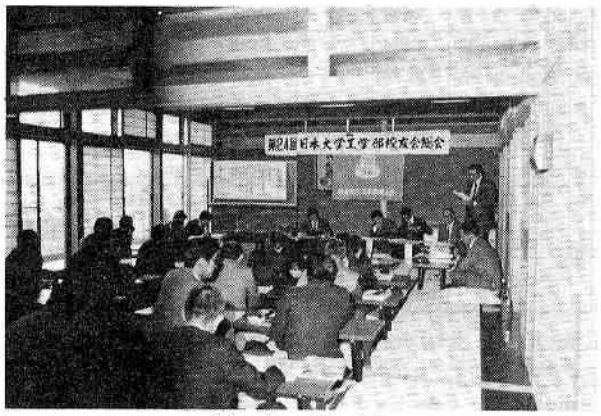
後藤選考委員長より役員選考結果の報告（表－3）があり、総会に於いて承認された。なお、本年度より会則の改正により、役員の任期は3年となる。

以上をもって全議案の審議を終了し、次いで、本総会に出席中の各支部の活動状況の報告に入る。

東海支部支部長　平野　卓（土3回）報告
九州支部　矢俣敏之（建8回）報告
東京支部　石島秀雄（建3回）報告
北海道支部　会長が代理報告

閉会の辞　武藤副会長

なお、懇親会まで時間があったので、廣川工学部長に、最近の母校の近況を伺った。



総　会　風　景

表－1

昭和55年度一般会計収支決算書

歳　入　　単位 円　△…減

款	項	種目	予算額	決算額	比較増減	附記
会費	1	終身会費	5,000	5,876,000	5,871,000	
	2	入会金	10,000	12,485,000	12,475,000	
		計	15,000	18,361,000	18,346,000	
繰越金	3	前年度繰越金	19,756,029	19,756,029	0	
		計	19,756,029	19,756,029	0	
雑入	4	預金利子	300,000	311,855	11,855	
	5	職員負担金	240,000	254,026	14,026	
	6	雑収入	18,971	64,930	45,959	
		計	558,971	630,811	71,840	
合計			20,330,000	38,747,840	18,417,840	

歳　出

款	項	種目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減	附記
事務費	1	給料手当	3,450,000	0	3,450,000	3,061,898	△ 388,102	
	2	保険料	420,000	0	420,000	404,426	△ 15,574	
	3	交通費	500,000	0	500,000	500,000	0	
	4	旅費	160,000	0	160,000	39,020	△ 120,980	
	5	交際費	400,000	0	400,000	379,350	△ 20,650	
	6	消耗品費	130,000	0	130,000	123,357	△ 6,643	
	7	備品費	250,000	0	250,000	200,000	△ 50,000	
	8	印刷製本費	350,000	0	350,000	275,750	△ 74,250	
	9	通信運搬費	210,000	0	210,000	204,240	△ 5,760	
	10	修繕維持費	10,000	0	10,000	680	△ 9,320	
	11	光熱水道料	40,000	0	40,000	34,300	△ 5,700	

歳出の続き

款		種目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減	附記
事務費	12	職員退職給与積立金	200,000	0	200,000	184,800	△ 15,200	
	13	雑費	150,000	0	150,000	140,090	△ 9,910	
		計	6,270,000	0	6,270,000	5,547,911	△ 722,089	
事業費	14	組織対策費	250,000	0	250,000	160,000	△ 90,000	
	15	会報発行費	3,550,000	62,480	3,612,480	3,612,480	0	名簿作成費より
	16	名簿作成費	500,000	△ 62,480	437,520	436,740	△ 780	会報発行費へ
	17	下宿対策費	10,000	0	10,000	6,500	△ 3,500	
	18	図書供与費	500,000	0	500,000	500,000	0	
	19	式典費	2,300,000	0	2,300,000	2,042,592	△ 257,408	
	20	負担補助援助費	650,000	200,000	850,000	850,000	0	予備費より
	21	旅費	650,000	0	650,000	396,440	△ 253,560	
		計	8,410,000	200,000	8,610,000	8,004,752	△ 605,248	
会議費	22	総会費	500,000	0	500,000	493,350	△ 6,650	
	23	役員会費	450,000	0	450,000	372,950	△ 77,050	
	24	連絡協議会費	800,000	0	800,000	445,685	△ 354,315	
	25	旅費	600,000	0	600,000	341,090	△ 258,910	
		計	2,350,000	0	2,350,000	1,653,075	△ 696,925	
積立金	26	積立金	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000	0	
		計	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000	0	
予備費	27	予備費	300,000	△ 200,000	100,000	0	△ 100,000	負担補助援助費へ
		計	300,000	△ 200,000	100,000	0	△ 100,000	
合計			20,330,000	0	20,330,000	18,205,738	△2,124,262	

歳入額　38,747,840円　　歳出額　18,205,738円
差引残額　20,542,102円を翌年度へ繰越しするものとする。

表－2
昭和55年度会員名簿電算機処理事業特別会計収支決算書

歳入

単位　円　△…減

款項		種目	予算額	決算額	比較増減	附記
繰越金	1	前年度繰越金	2,080,392	2,080,392	0	
		計	2,080,392	2,080,392	0	
繰入金	2	基本財産より繰入金	2,699,000	2,699,000	0	
		計	2,699,000	2,699,000	0	
雑入	3	雑収入	608	1,078,579	1,077,971	不足分1,080,000円
		計	608	1,078,579	1,077,971	
合計			4,780,000	5,857,971	1,077,971	

歳出

款		種目	予算額	流用増減額	予算現額	決算額	比較増減	附記
事務費	1	賃金	35,000	0	35,000	35,000	0	
	2	消耗品費	10,000	14,000	24,000	24,000	0	予備費より
	3	印刷製本費	300,000	0	300,000	291,750	△ 8,250	
	4	通信運搬費	600,000	0	600,000	579,230	△ 20,770	
		計	945,000	14,000	959,000	929,980	△ 29,020	
事業費	5	委託料	3,820,000	0	3,820,000	3,068,419	△ 751,581	
		計	3,820,000	0	3,820,000	3,068,419	△ 751,581	
予備費	6	予備費	15,000	△ 14,000	1,000	0	△ 1,000	消耗品費へ
		計	15,000	△ 14,000	1,000	0	△ 1,000	
合計			4,780,000	0	4,780,000	3,998,399	△ 781,601	

歳入額　5,857,971円　　歳出額　3,998,399円
差引残高　1,859,572円を翌年度へ繰越しするものとする。

昭和55年度財産現在高

56．3．31現在　　単位　円

運用費	基本財産	職員退職積立金	合計
22,401,674円	10,748,175円	904,326円	34,054,175円

表－3
昭和56年度～昭和58年度役員名簿

役名	卒業	氏名	勤務先
顧問		廣川　友雄	日本大学工学部　工学部長
参事	土1	渡辺　幸夫	福島市役所建設部
〃	電1	国分　欽智	日本大学工学部電気工学科
〃	電2	関根　昭一	郡山北工業高等学校
〃	化2	菊池　光子	日本大学工学部工業化学科
〃	土3	太田雄八郎	郡山市総合体育館
会長	土3	武田　仁幸	東和工業㈱　（自営）
副会長	化6	半沢　忠	パラマウント硝子工業㈱
〃	土8	武藤　貞泰	郡山市役所下水道課
事務局長	機9	佐藤　光正	日本大学工学部機械工学科
理事経理部長	建7	小栗　治男	日本大学工学部建築学科
理事事業部長	土13	西村　孝	日本大学工学部土木工学科
理事本部評議員	土3	松山　光克	郡山市水道局建設課
理事	化3	高野　操	日本大学工学部工業化学科
〃	土6	佐藤　吉新	㈱共立水道コンサルタント（自営）
〃	建6	佐藤　満夫	日本大学工学部建築学科
〃	電9	高久田　稔	白河実業高等学校
〃	土13	菊地　泰彦	大本建設㈱東京土木支店工事課
〃	化14	小川　敏彦	日本大学工学部工業化学科
〃	電16	伊藤　義人	郡山市総合体育館
〃	機17	今村　仙治	日本大学工学部機械工学科
会計監査	機2	菅野　宗和	日本大学工学部機械工学科
〃	化2	後藤　尚	日本大学工学部工業化学科
〃	建3	木村　圭二	郡山市役所農政課
評議員	化2	篠崎　道夫	回天物産㈱
〃	土5	梅原　正章	日東建設㈱福島営業所
〃	建8	古橋　栄吉	日本大学東北高等学校
〃	電8	国分　義功	郡山北工業高等学校
〃	建10	橋本　寛	日本大学工学部建築学科
〃	機10	川崎　一夫	東北断熱工事㈱
〃	機11	酒井　勝雄	福島県福島工業試験場金属材料科
〃	土12	村田　吉晴	日本大学工学部土木工学科
〃	電14	伊藤　宣佳	オーディオ開成㈱（自営）
〃	建15	馬場　彦吉	福島工業高等学校
〃	化15	小林　義美	郡山市役所下水道課終末処理場
〃	土16	加藤　定信	加藤建設㈱
〃	化16	野尻大五郎	郡山市水道局浄水課
〃	建18	国分　正孝	東和工業㈱工事部
〃	土19	長谷川一夫	郡山市水道局建設課
〃	機19	森谷　信次	日本大学工学部機械工学科
〃	電20	曽部　忠義	郡山市水道局浄水課
〃	電20	長澤　幸二	日本大学工学部電気工学科
〃	建21	久野　清	久野学園
〃	土23	寺山　喜信	郡山市役所土木建設課
東京支部長	土3	古村　和夫	古村建設㈱（自営）
東海支部長	土3	平野　卓	建設省中部地方建設局九山ダム管理所
北海道支部長	機8	三上　茂	三上建設㈱（自営）
九州支部長	電土2	川越　正	東急道路㈱九州営業所

（56．5．20現在）

日本大学工学部校友会会則

第1章　総　　則

第1条　本会は日本大学工学部校友会と称する。

第2条　本会の事務局は日本大学工学部校友会館内に置く。

第3条　本会は学術研究の推進並びに会員相互の向上親睦を図りもって母校発展に寄与することを目的とする。

第2章　事　　業

第4条　本会は次の事業を行う。

1．会員名簿の作成
2．会誌の発行
3．学生に対する下宿の紹介及び図書の供与
4．研究会及び講演会
5．その他本会の目的達成に必要な事業

第3章　組　　織

第5条　本会の目的を達成するため支部・支会を設置することが出来る。

第6条　支部及び支会は当該地在住の会員をもって組織する。

第7条　支部及び支会についての細部は支部・支会で定めるものとする。

第8条　支部支会の発足及び解散にあっては本会事務局に届け出るものとする。

第4章　会　　員

第9条　本会の会員は次の各号とする。

1．正会員
2．準会員
3．専門部会員
4．賛助会員

第10条　正会員は日本大学工学部（旧称第二工学部）を卒業した者及び日本大学大学院工学研究科を終了した者。

第11条　準会員は日本大学工学部在学中の学生。

第12条　専門部会員は、日本大学専門部工科（郡山）を卒業した者。

第13条　賛助会員は個人又は団体であって本会の目的事業を賛助する者。

第14条　本会会員は所定の会費を納入しなければならない。但し専門部会員の会費は徴収しない。

第5章　役　　員

第15条　本会の役員は次の各号とする。

1．顧　　問　　（工学部長）
2．参　　事　　若干名
3．会　　長　　1名
4．副 会 長　　2名
5．事務局長　　1名
6．理　　事　　10名
7．会計監査　　3名
8．評 議 員　　20名
9．日本大学本部評議員は理事相当職とする。
10．支部長は評議員とする。

第16条　役員の選出方法は次の各号による。

1．前条第3号第4号第5号第6号及び第7号は総会において正会員中よりこれを選出する。選出方法は別に定める。
2．前条第8号は理事会の推薦に基づき会長がこれを委嘱する。
3．経理担当理事及び事業担当理事は、理事会において任命する。
4．参事は、本会の歴代会長及び本会の発展に功績のあった正会員中より理事会において選ぶ。但し第15条第3号以下の役員に選出された者は除く。

第17条　役員の任務は次の各号とする。

1．顧問及び参事は理事会の諮問に応ずる。
2．会長は本会を統括し、会務を処理する。
3．副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時これを代理する。
4．事務局長は本会の事務処理にあたると共に事務局職員の指導監督を行う。
5．経理担当理事は本会経理事務を担当し、会務を処理する。
6．事業担当理事は本会事業運営のため会務を処理し各事業分担理事の統括を図る。
7．理事は本会の目的の事業を行うため会務を処理する。
8．会計監査は本会年度予算における会計決算事務を監査し会務を処理する。
9．評議員は本会活動事業内容等の提示をうけこれを協議する。

第18条　役員の任期は満3年とし再任を妨げない。

第19条　任期中における役員の空席に関しては、理事会の議決により補欠選出を行なう事がある。

第20条　補欠選出による役員の任期は前任者の残任期間とする。

第21条　その他必要な事項は役員会にて定める。

第6章　事　務　局

第22条　本会は会務を処理する為事務局内に事務局職員を置くことが出来る。

第23条　事務局職員の任免にあたっては理事会の議決を経て会長がこれを行う。

第24条　事務局職員との労働締結は理事会の議決を経て会長がこれを行う。

第25条　事務局職員の就業については事務局長の責に基づきこれを行う。

第26条　事務局職員の雇用関係は別に定める事務局職

員就業規則及び事務局職員給与規則に基づく。

第7章　会　　議

第27条　本会の会議は次の各号とする。

1．通常総会
2．臨時総会
3．役員会
4．理事会
5．専門委員会

第28条　総会は本会の最高議決機関であり出席正会員を以って成立する。

第29条　通常総会は毎年1回会計年度終了後2カ月以内に会長が招集する。

第30条　臨時総会は次の各号の1に該当する場合に会長が招集することができる。

1．役員会にて必要があると認めたとき。
2．正会員10分の1以上から会議に付議すべき事項を提示して要求があったとき。

第31条　総会の通知は事前にその会議の日時、場所及び付議事項を示し郵便、電話、若しくは会誌によって正会員に通知しなければならない。

第32条　総会は議事の進行上議長1名、書記及び議事録署名人各2名を出席正会員中より選出する。

第33条　総会の議事は出席正会員の過半数で決し可否同数の場合は議長が決定する。

第34条　正会員は各議決事項に対して1の議決権を持つ。

第35条　総会において議決する議案は次の各号による。

1．会務報告
2．事業報告
3．収支決算報告
4．役員選出
5．事業計画
6．収支予算
7．会則の改廃
8．その他重要事項

第36条　役員会は本会事業運営方法を図る議決機関である。

第37条　役員は第42条に基づく役員及び第15条第8号に規定する役員を以って構成され出席役員によって議決される。

第38条　役員会は次の各号に基づき会長がこれを招集する。

1．定例役員会は毎年上期、中期、下期の3回行うものとする。
2．理事会にて必要あると認められたとき。
3．過半数の役員により会議に付議すべき事項を示して要求のあったとき。

第39条　役員会の通知は事前にその会議の日時、場所及び付議事項を示し郵便若しくは電信によって役員全員に通知しなければならない。

第40条　役員会において議決する議案は次の各号による。

1．事業運営方法
2．会則の改廃（案）
3．規則、規定の改廃
4．収支決算報告
5．収支予算（案）
6．補正予算
7．その他必要なる事項

第41条　理事会は本会運営方法を提議する機関であると共に、本会会務の執行機関である。

第42条　理事会は第15条第3号から第6号までの役員を以って構成する。

第43条　理事会は次の各号に基づき会長がこれを招集する。

1．定例理事会は毎月の会計日5日以内にこれを行う。
2．会務執行上必要あると認めた場合は随時招集することが出来る。

第44条　理事会の通知は3日以前にその会議の日時、場所及び付議事項を示し、郵便若しくは電話によって第42条による役員全員に通知しなければならない。但し緊急を要する場合はこの限りでない。

第45条　理事会において議決する議案は次の各号による。

1．総会の議案
2．事業計画運営方法
3．会則の改廃（案）
4．規則、規定の改廃
5．収支決算報告
6．収支予算（案）
7．補正予算（案）
8．支部・支会規定の設定及び変更の承認
9．補欠選出に関する事項
10．理事会にて必要あると認められた事項

第46条　専門委員会は本会事業運営上特に必要あると理事会にて認めたる場合にこれを設置することが出来る。

第47条　専門委員会は本会の目的の事業を行うため生ずる問題を細部にわたり調査する機関である。

第48条　専門委員会の委員には本会役員の他、部門に応じて委員を依頼することが出来る。

第49条　専門委員会はその報告等を文書にて理事会に提出しなければならない。

第8章　会　　計

第50条　本会の資産は次の各号による。

1．基本財産
2．運用財産
3．引当財産

第51条　本会資産の定義は次の各号による。

1．基本財産は理事会及び役員会の議決により

基本財産に指定された財産（備品）若しくは総会において編入を議決したものをもって構成する。

2．運用財産は基本財産及び引当財産以外の資産とする。

3．引当財産は特定の目的をもつ積立金で総会の承認を受けるものとする。

第52条　本会の財産管理並びに会計は日本大学工学部校友会経理規則によるほか理事会で議決された方法によって会長が管理する。

第53条　本会の経費は会費、資産又は事業から生ずる収入若しくは寄付金その他の収入によって支弁する。

第54条　収支決算及び財産（備品）目録は毎会計年度終了後2カ月以内に会計監査の意見書を付し総会の承認を受けるものとする。

第55条　本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日終る。

第9章　会　　費

第56条　本会の会費は次の各号とする。

1．入 会 金　　10,000円

2．終身会費　　5,000円

3．賛助会費　　1口100,000円

第57条　入会金は日本大学工学部入学時に納入する。

第58条　終身会費は毎年に亘り徴収しない会費で日本大学工学部卒業時に納入する。

第59条　賛助会費は入会時に納入する。

第10章　補　　則

第60条　本会則施行に必要な規則は別に定める。

付　　則

第1条　会則第16条に基づく役員選出方法は次による。

1．会長、副会長、事務局長、理事、会計監査は総会において選考委員会を設けて選出する。

2．選考委員は総会にはかり決定する。
選考委員の構成は7名とし次による。
(1)出席正会員の中から　各科1名　計5名
(2)役員の中から　　会長の指名する者2名

3．選考委員の互選により委員長を選出する。

4．役員の選出は選考委員長のもとに選考委員会を開き会長の推薦した者（執行部案）、選考委員の推薦した者及び立候補した者の中から決定する。
役員に立候補する者は、当年度終了1ヵ月前までに会長に立候補の意志を届けなければならない。

5．選考委員長は前項の結果を総会に報告する。

6．役員に選出された者が辞退する場合は、その役員との交渉、去就及び補充については会長に一任する。

7．この付則は昭和56年4月18日から施行する。

第2条　本会則は昭和43年4月1日より施行する。

昭和45年4月19日一部改正
昭和46年4月18日一部改正
昭和47年4月23日一部改正
昭和49年4月21日一部改正
昭和50年4月20日一部改正
昭和51年5月23日一部改正
昭和55年4月26日一部改正
昭和56年4月18日一部改正

〔会則の改正について〕

56年度総会で、上述のように、会則の一部が改正になりました。その要点は、次の通りです。

1．専門部工科（郡山）の卒業生を「専門部会員」として、工学部校友会の一員に加えたこと。

2．役員の任期を3年にし、新たに「参事」をもうけたこと。それぞれの役員の任務を明確にしたこと。そして、役員選出方法を付則として、会則に加えたこと。

以上ですが、これによって、工学部校友会の会員数は、次のようになりました。

正会員(学　部)	20,370	名
(大学院)	177	名
準会員	5,090	名
専門部会員	363	名
計	26,000	名

〔表紙説明〕

工学部の大講堂（1階は食堂など、2・3階が大講堂兼体育館）は昭和40年に建設されたが、このたび、屋上屋根の架け替え工事が行なわれた。

今までのトラス型構造屋根をアーチ型構造屋根にしたもので、天井も7mから14mに高くなった。

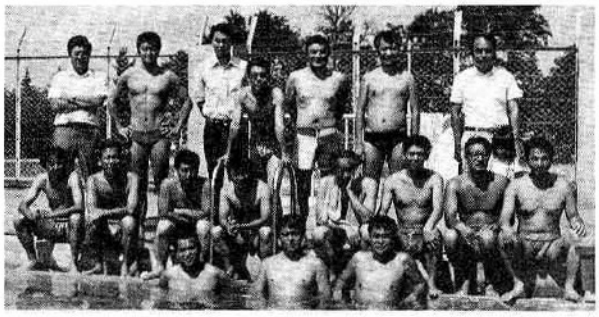
工事中も、体育館や食堂は使用する条件で、H型鋼を利用した菱形網目状の立体構造ヒシフレーム構法が使われ、屋根をふき終ってから、既存屋根のトラス梁を3～4枚1体にしてローラーで引っ張り、一度3階の床に移動、ここでさらに三分割して窓から搬出した。建築面積2,095㎡もの大きい建物を使用しながら屋根を架け替える例は世界にもあまり例がなく、56年1月22日の日刊工業新聞にも紹介された。

同　窓　会　だ　よ　り

ウォータマン・クラブからの便り

窪　田　敏　郎

ウォータマン・クラブとは日大工学部の水泳部出身のＯＢ会名称です。第１期生は、工学部の第12回卒業生で、クラブの人員も約30名（ＯＢでも連絡がつかない人や定例会に出席したことのない人は除く）になりました。活動は年１回３月東京で定例集会を開催しております。近年工学部のすばらしい発展と共に、大学構内の変化も激しく、一昔前の兵舎を改造した校舎やブロックを積んだ研究棟等もあった懐かしい面影が無くなり、近代的な建物にすっかり建替えられており、そのような雰囲気の学園内に集まり、郡山市内で定例集会を開催しようとの声が会員から強まり、55年８月に第16回定例集会を市内で１泊して開催しました。郡山市内の町並も在学時代とすっかり変って美しく発展しておりました。その時に工学部のプールで（私等の在学時代は工学部にプールがなく開成山プールを借りてトレーニングした）第６期生以前のチームと以後の



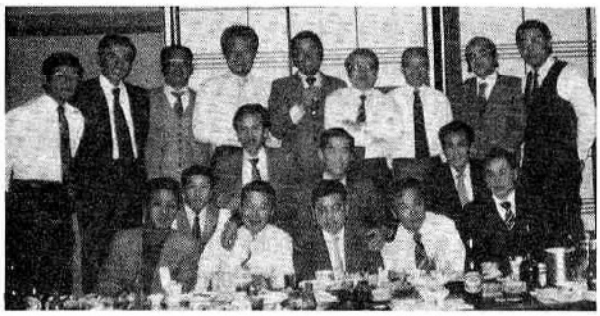
チームに別れて競泳会を行ないました。水泳は30才も過ぎると俄然競泳のスピードが落ちると頭の中ではわかっていたが、現実に接すると自分の体力の衰えが判然として目をそらしたくなりました。当時はプールで50mを競泳するのは、ちょっと隣へ立寄るような調子で通過していたのが、なんと遠い隣になったかと青息吐息でした。しかし、昔とった杵柄とはよく言ったもので、くたばればそれなりに身体の抵抗をより少なくするように身体を進む方向に対して水平を保つように自然としている自分に驚きました。スポーツのトレーニングでよく「体に覚えさせる」という意味が今頃になって納得できました。競泳会後の皆の顔は、日頃の業務疲れをすっかり忘れ、すがすがしさで一段と若々しく見え、その時に何かの目的のもとに一致して情熱を傾けた青春時代の体験が、こんな場合に再現出来るかとうれしい思い出をつくれました。

（ウォータマン・クラブ第１期生、電気工学科第12回卒、東京計器ランデイスギア㈱）

北心会総会

中　島　康　之

北心会はもともと北心寮が在った時代に先輩が、４年生の卒業式の日に社会に送り出す会として発足し、その後北心寮もなくなり又池田のおじさんおばさんも亡くなり毎年東京で北心寮をなつかしむ会として北心会を開いて来ましたが、本年は前々より皆様の希望で郡山でという話しがあり、校友会の総会に合わせて昭和56年４月18日午後６時より郡山駅前「きっすい」にて北心会総会を開催致しました。



全国から約20名が集まり本年度の役員改選を行ない会長建３回石島秀雄氏、理事に土２回鈴木恒秋氏化３回高野操氏土４回黒沢幸祝氏土４回田沢大氏、事務局に建12回越前勉氏建13回中島康之電17回梶野政隆氏に決定し、会長挨拶の後懇親会に移り、古き良き寮生活を振り返り学生時代にもどって美酒に舌鼓をうち、話に花を咲かせました。その中で北心寮歌のルーツを高野先生に話を聴き当時の木造の寮の生活を知り、現在の寮との違いに驚きました。来年の再会を約して全員が肩を組み、昔にもどって寮歌、校歌、応援歌を大合唱し散会となりました。校友会、その他の方より寄付をいただきありがとうございました。北心会名簿不明者が50人程度おります、ぜひ事務局まで連絡をお願いします。

（事務局　中島康之（建13回））

陸桜会（陸上競技部ＯＢ会）総会

石　嶋　秀　雄

昭和53年７月に工学部陸上競技部ＯＢ組織として、陸桜会（会長太田雄八郎・土木３回卒）を発足させた。これは会員相互の向上親睦を図り、クラブ後輩の指導援助を行うためのものである。

第２回目の総会を校友会の定期総会の前日にあたる昭和56年４月17日㈮に、磐梯熱海のホテルで開催した。

出席者総員31名、工学部からは石田事務局長、伏見教授、校友会から武田会長に特に出席していただいた。

石田事務局長のあいさつの中で、大学の現状および総合グランドの整備計画について説明をうけました。立派に完成した日本陸上競技連盟３種公認グランドの件に話題が集中しました。伏見教授（陸上競技部長）

の乾杯の音頭で宴会にうつり、クラブ発足当時の話、学生々活の話など懐かしい思い出話に花を咲かせました。

翌朝は母校工学部を見学し、桜の花が８分咲きの校内を具にみてまわりました。古田銅像前や完成した陸上競技場で記念撮影をしました。卒業後初めて母校を訪ねた人たちは、昔学んだ兵舎がなく、学内の変貌に驚きの様子をかくしきれませんでした。陸上競技場のある場所は昔、牛が放し飼いにしてあり、牧場のようであったと話すものもいました。またその草原を走った記憶があるとの声も聞かれた。

午前11時、再会を約束し、一応解散とした。校友会の総会に出席するものと、所用があり帰途するものとに分れた。

（建築学科第３回卒、㈱伊藤喜三郎建築研究所）

建築８回卒の同級会

古　橋　栄　吉

卒業後21年目になりますが、昭和52年に続き第２回目の同級会を６月20日の夕方から開成山の熱田屋旅館で開催し、出席者は師橋先生、三沢先生、小栗先生を交え総員25名でした。

定刻に近づくにつれ一人一人が集まって来ると、お互に懐しさのあまり〝オー！〟とか〝ヤー！〟とか、それぞれ元気な笑顔で再会の挨拶、それぞれ21年の年輪を顔に刻み、特に体形（太って貫禄十分）と頭髪（薄く、また白く）には著しい変化が顕われていました。

本人から、また周わりの者から誰々と云われないと名前と顔が一致しない者もいる。そのために胸に名札を付けてもらいましたが、お互の距離を縮めるのに大

変に役立ちました。

宴会は出席下さった先生方のご挨拶より始まり現況を兼ねての自己紹介（ユーモアたっぷり、ときにはヤジもとぶ）、続いて各自が席を移しながら膝を交えての懐旧談やら仕事の話、家庭の話にと尽きることなく話に花を咲かせ最後に校歌、エンジニアの歌、北心寮歌を合唱し名残り惜しみつつお互の健闘と再会を誓い合って散会した。

翌朝、遠方から来郡した人も帰りの汽車、飛行機の時間を見計らって学校に車をとばした。新らしい施設に一変したキャンパスに驚きながらも２号館校舎の当時の教室へ三沢先生に案内して戴き銘々が席順まで思い出し、席につくと21年の年月がつい昨日の様に縮まって感じるから不思議です。

最後に遠路この会に出席された勝井清君（北海道）矢俣敏之君（福岡市）浜中義記君（徳山市）小野卓也君（呉市）には幹事より深く感謝いたします。

（建築学科第８回卒、日本大学東北高等学校）

32年度土木工学科入学生同窓会

箙　　紫　郎

我々32年度土木工学科入学生は、昭和36年に分散会をして以来一同が会する機会がないまま、本年で20年が経過した。このことから郡山市内に在住する５人が発起人となり、連絡をしたところ、遠くは、九州からの参加者もあり総勢27名が思い出深い磐梯熱海温泉一力旅館に参集し、本年５月30日に同窓会を開催した。当日木村先生、杉内先生にも御出席いただき、20年ぶりの再会に思い出話しや現況等の話題がつきず深夜迄心ゆく迄語り合った。

各人各部門で各々重要な役割を役しており一番充実している様子であり、多忙のため郡山に20年ぶりに来た者も多数であった。このため翌30日には、是非学校に行ってみたいとの意見が出され、杉内先生が案内をして下さることになり一同学校めぐりをしたが、20年前の木造校舎等の面影はなく、近代的な建物、充実した施設ならびに内容に目をみはるばかりであった。過ぎ去ってみれば、20年は早いと感じていたが、この現実を目のあたりにして、感概深いものがあった。今後定期的に同窓会を開催することを約し夕方散会した。

今後本校のますますの御発展を希望しまして我々32年度入学生同窓会の報告とします。

（土木工学科第９回卒、郡山市役所、旧姓工藤）

校友短信

（校友会の事務局へのお便りや、その他の連絡などから無断で掲載いたしました。ご了承下さい。）

土木工学科

◇**佐藤邦彦**（15回卒、五洋建設㈱シンガポール出張所工事事務所長）

昭和49年12月から、シンガポール勤務を続けています。広島県人として頑張っています。

（56．3．30受）

◇**菊地敏彦**（17回卒、㈱本間組土木部工事課係長）

昭和49年1月から54年4月まで、新潟佐渡の大野川ダム建設工事に従事。現在久知川ダム建設に従事しています。55年3月まで、同級の佐藤賢弥氏が県職員として働らいていました。本間組には、日大卒が56名（工学部13名）おり、桜友会を年に1度ひらいています。

（56．3．19受）

◇**白井直博**（24回卒、セントラルエンジニアリング㈱）

53年から55年まで、青年海外協力隊隊員として、ガーナ国の工業専門学校で物理と測量の教師をしてきました。

（55．11．4受）

建築学科

◇**竹崎紘一**（15回卒、大成建設㈱海外事業本部建築工事課建築工事係長）

昭和50年から海外事業本部に所属し、インドネシア・アラブ首長国連邦と2～3年づつ海外生活が続いていました。まだ2～3年は続くと思います。

（56．2．20受）

◇**小松建大**（19回卒、松戸市役所建築部建築課）

千葉地方に支部等がございましたら、誰か教えて下さい。

（55．10．31受）

◇**秦　寿吉**（21回卒、㈱秦工務店）

昭和55年3月に、お客様のサービスとして、「住いの相談室」を開設しました。「住い」は人間の長い一生に深くかかわっています。それで「人生の相談室」に成り得たらと思っています。

（56．3．23受）

◇**赤羽廣治**（24回卒、赤羽鉄工㈱）

矢作先生のところで卒業研究をしました。校友会で、卒研同窓生の名簿をつくって下さい。

（56．3．16受）

◇**中澤國弘**（25回卒）

歯科医師を目標に、城西歯科大学に在学中です。日大に入学し、弓道部で張り切っていた頃が想い出されます。

（56．3．19受）

◇**正木慎一**（25回卒）

The University of Texas at Austin に留学中です。

（56．3．9受）

機械工学科

◇**小俣健太郎**（23回卒、郡山市水道局配水課）

54年11月に郡山に移り、55年8月より郡山市役所に入りました。

（56．2．5受）

電気工学科

◇**陣内美彦**（10回卒、佐賀県教育センター）

佐賀県情報処理センター建設準備のため、教育センターに勤務しています。昨年は3カ月間、福岡県に内地留学していました。校友会の発展をお祈りしています。

（56．3．18受）

◇**渡辺大造**（22回卒）

卒業後、フランス国立美術学校に入学、帰国し、絵の勉強中です。

（56．3．16受）

◇**丹羽幸雄**（26回卒、富士ゼロックス㈱オフィス・システム販売部サービス課）

現在、コンピューターのout put のマシンを修理調整している毎日です。情報2級の資格を取得するよう努力中です。

（56．3．18受）

工業化学科

◇**稲垣哲也**（19回卒、清美化学㈱開発部兼環境分析センター主任研究員）

環境計量士、作業環境測定士その他の資格を取得し、分析センターを開いています。

（56．3．17受）

噂のページ

◇**高田昌實君**（電気1回卒）

現在、東京電力、本店、建設部々長待遇。昭和53年6月よりP.T.インドネシア．アサハンアルミニューム出向、本年1月帰国。このたび昭和56年度工学部新入生歓迎行事として、4月7日、“若い世代に期待するもの”の演題で講演されました。長い海外生活の豊富な体験をもとに、国際的視野からの勉学を強く望まれ、新入生諸君へ大きな希望と自信を与えました。

（国分欽智・電1）

CAMPUS

mini MEMO

◆菅野宗和君らが工学博士に

日本大学大学院工学研究科では、論文提出による工学博士の学位を、56年3月16日付で授与した。論文博士の第3号と4号です。

工学博士　菅野宗和

回転曲げをうける軸の塑性疲れにおけるたわみについて

菅野宗和氏は第二工学部機械工学科の第2回卒、32年4月より母校に勤務し、現在、助教授。

工学博士　小倉幸夫

鉄鋼溶接部の超音波探傷による欠陥寸法測定法に関する研究

小倉幸夫氏は、日立茨城工業専門学校卒で、現在、日立建機㈱に勤務。

◆校友の母校での教員

昭和56年4月1日付で、次の卒業生の教員が昇格されました。

専任講師　電気工学科　尾股定夫（20回卒）

◆正課授業にアメリカ人講師を迎える

今更言うまでもない事だが、今日の国際化社会において、外国語、特に英語の運用能力の必要性は益々高まっている。このような状況に対応する為、工学部では56年度より、1年次生に限り、正課の「英語Ⅱ」の時間を割り当て、各クラスとも前・後期いずれかの半期間、アメリカ人講師によるプラクティカルな指導を受けることになった。

講師の一人は、東北歯科大学で教鞭をとられるかたわら、1975年以降本学部で正課外に英会話の指導をされてきた、サウス・ダコタ州出身のJohn Vernon Nelson 先生で、美術を愛好し、目下陶芸に凝られている。更にもう一人は、福島イングリッシュ・センターに勤務されている、イリノイ州出身のJohn Shaw先生で、釣りを楽しみ、又卓球、ゴルフ、テニスを愛好する、見るからにスポーツマン・タイプの人物である。

かねてから本学部の学生について認識をもたれているネルソン先生によれば、「学生諸君の心からshyness（はにかみ）を取り除いてあげれば、決して他大学の学生に引けを取る事はない。」との事で、学生諸君がこの好機を最大限に活用するように切望している。写真は授業中のショウ先生。（この項は梶川教授にお願いしました。56.7.10. 記）

◆就職講演会で野島氏が講演

昭和56年度の就職講演会が5月28日に行なわれた。その折、水戸市の中協設備工業㈱代表取締役の野島宏俊氏（機械工学科12回卒）が「企業の実態と求める人間像」と題して講演した。

氏は、学生時代のことから話を始め、企業の中の個

人、企業の実態などについて、経験をもとにした、生々しい話題に集中し、多くの4年生に感動を与え、有意義であった。

野島氏のほかに、ダイヤモンド・ビック社の編集長の和賀栄一氏の話があった。

このような形式の就職講演会は、毎年5月ころに開催されている。

◆インカレに弓道が優勝

昭和56年東北地区大学総合体育大会（インカレ）は6月末に山形市を中心に行なわれた。工学部の入賞は次の通り。

弓　道	団体優勝
陸　上	総合4位
	高木浩之（5,000m・10,000m 優勝）
	細山田浩二（800m 2位）
水　泳	総合4位
	八重田淳（100m 自由 優勝）
	（200m 自由 3位）
	吉富一郎（100・200mバタ 共に4位）
空手道	最上博文（2位）
サッカー	Bブロック 3位
柔道・羽球	共にベスト8

（た）

昭和57年度入学試験　日本大学工学部

◆入学試験
入試期日（試験日）
昭和57年２月15日(月)
建築学科・電気工学科・工業化学科
２月16日(火)
土木工学科・機械工学科
試験場　郡山試験場（工学部校舎）
東京試験場（日大経済学部校舎）
入試科目　外国語：英語Ｂ
数　学：数学Ⅰ・ⅡＢ・Ⅲ
理　科：「物理Ⅰ・Ⅱ」「化学Ⅰ・Ⅱ」の２科目から１科目選択
募集人員　約６５０名

◆推薦入学
普通・理数科：（資格）指定した高校の普通科・理数科を昭和57年３月卒業見込で学業成績は評定平均値の平均が 3.8以上の者。
（推薦人数）一校あたり２名以内
工業科課程：（資格）高校工業課程を昭和57年３月卒業見込で学業成績は評定平均値の平均が 4.0以上の者、出願できる学科は本人の履修した専門学科に関連のある学科に限る。
（推薦人数）一校あたり土木、建築、機械、電気の４科については合わせて４名以内（ただし、一学科２名以内）工業化学科は２名以内。
出願期間：昭和56年10月20日～10月31日
試験日（面接・参考試験・作文）
昭和56年11月16日(月)
募集人員　約１９０名

〔事務局だより〕

○本年度の支部等の総会は、次の日程で行なわれました。

北海道支部	７月16日	札幌市
東海支部	６月13日	名古屋市
九州支部	７月14日	福岡市
山口アカシヤ会	７月18日	山口市
香川地区	６月20日	高松市
宮崎地区	７月18日	宮崎市
沖縄地区	６月12日	宜野湾市

○会員名簿の発行は、例年ならば、55年に行なうはずでしたが、電算化の途中でもあるので、それを見送り、57年に刊行の予定です。
現在、約 7,100名の会員が電算機へ未入力となっておりますので、それらの入力を待って、名簿の発行を行ないたいと予定しております。
現在約13,500名の名簿の台帳は事務局にありますので、希望者にはコピーしてあげております。校友会報No.37の５ページを参照し連絡して下さい。
○名簿の登録事項に変更が生じましたら、直ちに事務局へ連絡して下さい。
○校友会報に掲載する「広告」について、会員のご協力をお願い致します。

北海道支部
支部長　三上　茂（機８回）三上建設㈱
事務局長　藤林義広（土17回）札幌市役所交通計画課

東京支部
支部長　古村和夫（土３回）古村建設㈱

東海支部
支部長　平野　卓（土３回）建設省中部地方建設局丸山ダム管理所
事務局長　河野　叶（土６回）東名開発㈱

九州支部
支部長　川越　正（専土２回）東急道路㈱九州営業所
事務局長　陶山順一（建15回）㈱陶山建設

校友会報第３８号
発行所　日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原１
郵便番号　９７９－６６
電話番号　郡山(0249)44－1327
振替口座番号　郡山1990
発行日　昭和56年９月１日
発行者代表　会長　武田仁幸
編集者代表　事務局長　佐藤光正

衛生的な環境と快適な生活を創る
空気調和・衛生給排水設備・設計・施工
中協設備工業株式会社
取締役社長　野島宏俊（機械工学科第12回卒業）
他　機械工学科卒業生６名在社
〒310 水戸市見和２丁目286－5　ＴＥＬ(0292)５３－３９１１